

■原則2 優れた「生物の生活空間」の検討総括表(案)

河川環境の視点	優れた「生物の生活空間」の項目	優れた「生物の生活空間」の中核的範囲			ページ
		評価指標〔環境要因 (K) 生物指標 (S) 〕	閾値	総量	
1. 水温	1-1 冷水性種が多く生息する場所	冷水性種の種数 (S)	上位11%値	43ユニット(8地点)	1
2. 森と川の連続性	2-1 川と接する森林の多い場所	森と川の隣接率 (K)	上位12%値	59ユニット	3
3. 流れの多様性	3-1 多様な生物を育む瀬と淵の多い場所	淵の密度 (K)	上位10%値	18ユニット	5
4. 河道の攪乱	4-1 広がりのある礫河原の環境が維持される場所	礫河原に特有な植生の分布 (K)	低水路に存在	4ユニット	7
	4-2 広がりのある溪谷の環境が維持される場所	溪谷に特有な植生の面積 (K)〔溪谷に特有な種(サツキ)の個体数(S)〕	サツキが出現しはじめる値	14ユニット	9
5. 水辺のエコトーン	5-1 水辺のエコトーン群落の多い場所	エコトーン群落の面積 (K)	上位10%値	14ユニット	11
		貴重性の高いエコトーン群落の分布 (K)	RDB掲載		
6. 生息場所の広がり	6-1 まとまったオギ原のある場所	オギ原の面積 (K)	上位10%値	35箇所	13
	6-2 まとまった河畔林のある場所	河畔林の面積 (K)	上位10%値	3箇所	
		貴重性の高い河畔林の分布 (K)	RDB掲載		OR
7. 多様性	7-1 在来種が多く生息する場所	在来種の種数 (S)	上位10%値(魚類) 上位10%値(底生動物)	魚 類:50ユニット(8地点) 底生動物:57ユニット(9地点)	17
8. 希少性	8-1 重要な種の生息の核となる場所	重要な種の種数 (S)	上位10%値(魚類) 上位10%値(底生動物) 最小の地点数で重要な種を全て カバーする組合せのユニット(地点)	魚 類:71ユニット(13地点) 底生動物:90ユニット(16地点)	19

■配慮を検討すべき「生物の生活空間」の検討総括表(案)

河川環境の視点	配慮を検討すべき「生物の生活空間」の項目	配慮を検討すべき「生物の生活空間」の範囲		ページ
		評価指標〔環境要因 (K) 生物指標 (S) 〕	範囲の特定方法	
1. 水質	1-1 耐汚濁性種が多く生息する場所	耐汚濁性種の個体数比率 (S)	評価指標値が上位10%区間内にある地点(ユニット)とする。	21
2. 流れの分断	2-1 海と川の連続性を確保すべき場所	汽水・回遊種の種数 (S)	武庫川水系の評価指標値が全県の上位10%区間内にないため、範囲を河口部付近とする。	22
	2-2 川の連続性を確保すべき場所	水生生物の移動可能区間長 (K)	評価指標値が上位10%区間内にある区間には含まれる延長の短い区間とする。	23
3. 水辺の改変	3-1 コンクリート護岸の割合が多い場所	低水護岸の延長割合 (K)	評価指標値が上位10%区間内にあるユニットとする。	24
	3-2 礫河原の広がりを確保すべき場所	礫河原に特有な植生の分布 (K)	礫河原の環境が維持、または維持されうるユニットとする。	25
4. 外来性	4-1 外来植物群落が入り込んでいる場所	外来植物群落の分布 (S)	生態系に大きな影響を与える外来植物群落が存在するユニットとする。	26
	4-2 外来性魚類が入り込んでいる場所	外来性魚類の生息及び生息確率の和 (S)〔流域面積(K), 河床勾配(K), 標高(K)〕	外来性魚類の生息確率が高く、実際に生息が確認されているユニットとする。	27